

# 「CORPORATE REPORT 2017」を読んで

2017年9月1日  
神戸大学大学院  
経営学研究科教授  
國部 克彦



### 「選ばれる京阪」の具体化

平成28年4月の持株会社移行後一年を経過して作成されたコーポレートレポートは、京阪グループとしての方針、すなわち経営理念体系から中期経営計画までの関係、そしてその根底にあるCSRの考え方も分かりやすく整理・明示する内容となっています。京阪グループ経営ビジョン「“選ばれる京阪”への挑戦」の実現に向け、中期経営計画「創生果敢」では、3つの主軸戦略「観光創造」「沿線再耕」「くらしの価値を高める“コンテンツの創造”」と4つのコア事業が取り組む重点戦略に落とし込み、京阪グループが提供する価値を説明しています。第2の創業の内容が具体的に見えてきました。CSRの観点から言えば、このような方針が、どのような社会的価値の創造へつながっていくのか、に期待が高まります。

### CSRの多様な活動の促進

報告書では前半に方針や組織の整備状況、事業分野ごとの説明が記載され、そのなかで京阪グループが創造する価値について語られています。後半は具体的な事例がたくさん紹介されています。豊富な事例は京阪グループの活動が充実していることを示しています。ただし、これらの活動が、全社的な経営方針のもとでの取り組みなのか、ボトムアップ型の多様な活動なのか、分かりにくい面もあります。CSR活動にはその両面が必要なので、京阪の経営方針から行うCSR活動には目標の設定や指標化などのマネジメントを、ボトムアップ型の活動については社員の創意工夫を促す仕組みの構築が必要になると思います。

### グループのレポートとして

京阪グループの報告書として、グループ全体の状況を知りたいと思います。安全安心については、鉄道が中心ですが、バスや住宅、さらに食の安全安心までが紹介されています。食の安全確保からオーガニック食品の普及拡大、また従業員のワークライフバランスから働き方改革、子育てしやすい街づくりなど、さまざまな分野における社会課題の解決への貢献事例が見られました。京阪グループが本業で社会に貢献している様子が分かりやすく紹介されていると思います。Special対談では「駅は場である」といった議論も交わされていますが、公共的な分野を含むさまざまな分野の事業を包括するグループだからできる貢献は期待が高く、その評価も高いものとなります。

京阪グループの活動報告としてとても分かりやすい報告書ですが、一部の社会性情報に関してはグループ全体を範囲としていません。可能な限り数値情報でグループ全体について情報発信されれば、さらに京阪グループの評価が高まると思います。